

性生活のない妻は 1:34

夫に内緒で他の男に抱かれている

「目線でわからんが妻に似ているな・・・」

掲示板に貼られている

妻の写真を見ても気づかない夫

雅乳6

雅〇の日常

PAPEPON2

第一話

学校も行かず毎日ゲーム三昧で引きこもっている僕
なんでこの部屋にこの親子がいるかというと
昼、公園でコンビニ弁当を一人で食っていたら
リコちゃんに話しかけられたのがきっかけだ

それからというものの毎日昼に公園のベンチで
コンビニ弁当食ってたわいのない話をリコちゃんと友達になった



ある日、リコちゃんがお母さんを連れてきた
共働きで 娘をなかなか構ってあげられてなく一人きりで遊んでいたの
友達ができたと喜んでた

外で話すのもなんだからと僕の部屋に誘った
リコちゃんがコタツで昼寝しちゃって話すこともなくなり
気まじくなくなった時に雅音さんに誘惑されて関係を持ってしまった

それ以来 SOXする日はリコちゃんを連れて僕の家泊まるようになった

夜

リコちゃんが料理を作ってくれたことになった
よく出来たお子さんだ…

「リコ

ママも手伝うわ」

「ママと一緒にだ」と時間掛かっちゃうから

あっちの部屋でお皿用意しといて」

僕は雅音さんは食事が出来るまでやることがなかったの
で性欲が我慢出来なくて雅音さんをトイレに連れ込んだ

「ごなら大丈夫
どんなものか一回使ってみたかったんだよね」

この日の為に購入した夫人のおもちゃを雅音さんに試してみた
より感度が上がるようにアイマスクと声が届かないよう僕のパンツをくわえさせた
電動バイブのスイッチを入れると感じていたのか雅音さんはビクビクと反応した

んん

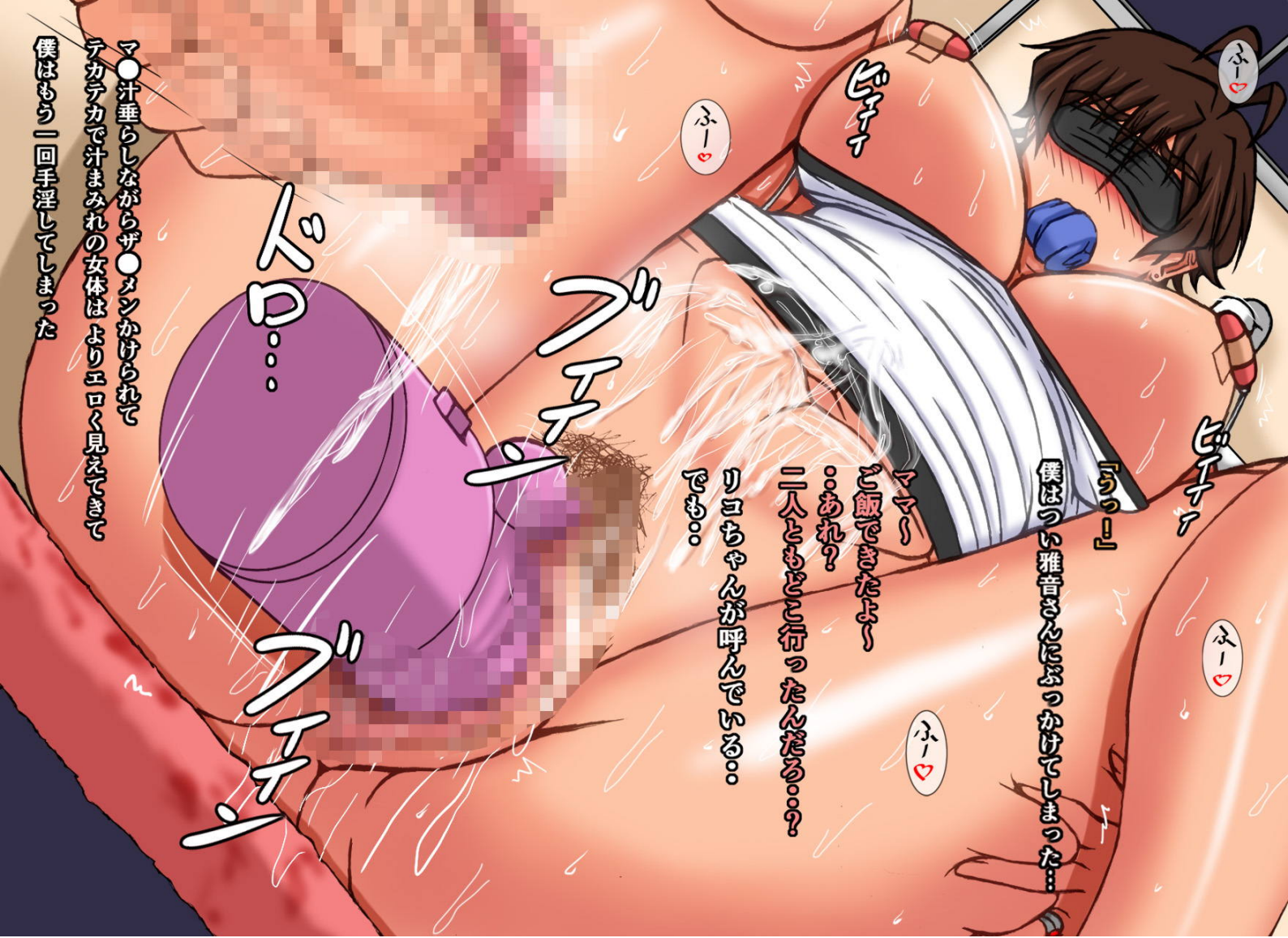
ブリ
イ
イ
イ
イ
イ

「ん〜」

ビィィ

ビィィ

数分間乳首とマ○コを責められ
じつとりと汗をかきながら喘ぎ声を出せずヨガっている姿を見ているとなんだか興奮してきた
僕は雅音さんのイヤらしいヨガリ姿を見ながら手淫した



ふー♡

ふー♡

ふー♡

ふー♡

ふー♡

ふー♡

僕はいつか雅音さんにぶっかけてしまった...

「んー」
「んー」
「んー」

「あーっ」

二人ともさっさとさっさとさっさと...

リロちゃんさっさとさっさとさっさと...
さっさと...

ド...

ブイ
ブイ
ブイ

マ●汁垂らしながらザ●メンかけられて
テカテカで汁まみれの女体はよりエロく見えてきて
僕はもう一回手淫してしまった

食事が終り 先にリコちゃん達が風呂に入った
テレビをぼーっと見ていたら リコちゃんが早めに風呂から上がってきた
どうやら観たいテレビアニメがあるらしい

雅音さんがまだ風呂に入っているようなので
トイレに行くふりをして バスルームに向かった



「今洗ったばかりなんだけど…」

「さらさらさらさら」

もう…

はぁ

「おっ！
びっくりした
なんだ○○クンか」

裸になりシャワーを浴びてさらさら雅音さんにそっとなづき抱きしめた

「体洗ってあげるよ」

はぁ

はぁ

アキッ

アキッ

アキッ

僕はボディソープを使い雅音さんの体を洗った
乳首をつまんだり 引っ張ったり丁寧に洗い
手○ンするようにマ○コも洗ってあげた

アキッ

アキッ

アキッ

アキッ

アキッ

ドニー♡

ドニー♡

「んあっ♡

だめよ…♡

リコが…♡」

雅音さんは大きい声を出せないが
感じているようだった

仕上げはチ○コにボディソープをつけて
ス○タするように洗った

もう♡

はあ

ドニー♡

「…っ」

「アニメに夢中だからばれないうって」

んん♡

はあ

はあ

んん♡

んん♡

んん♡

ローションみたくにすべすべして
マ○コとチ○コが擦れ合っ♡のがとても気持ちよへで
射精してしまった



リコちゃんが寝たのを見計らって
雅音さんの布団に潜り込んだ
風呂でのSOXは時間の制限もあり
満足できなかった

雅音さんは喘ぎ声が漏れないよう枕で口を塞いでいた
リコちゃんにばれるかばれないかのギリギリな感じがとても興奮した

僕はもっとやりたくて前戯もほどほどにし
バックスタイルで合体した

僕はぱごり音で起きてしまっうんじゃないかってぐらら
雅音さんの大きなお尻に腰を乱暴に叩きつけた

僕達は明け方まで愛し合った
雅音さんに会ってない日にち分は膣内に流し込んだ気がする…

りこちゃん達が帰った後 机の引き出しに
この日の為に買っていたコンドームがあったことに気づいた
これは次の機会に使うことにしよう

終



第二話

夏休み：

なんて素晴らしいんだろう

この期間はいやな先輩のいじめにあわなくてすむ

ブルブルブル：

携帯が鳴ってる

先輩からだ：

出ないとまた何されるかわからないし

出るしかないか：

「おい 出るの遅えよ

〇〇、〇月×日海に行くぞ 現地集合な」

「えー…いや…その日はちよつと用事が…」

「ああ？もちろん来るよな？」

「えーと…その日は…」

そ…そうだ！彼女とデートだ！」

「気弱で童貞のお前に彼女なんているのかよ？

じゃあ連れて来いよ その彼女

嘘だったらわかってるよな？」

「…はい…」

先輩は用件だけ言うと

さっさと電話を切ってしまった

とっさに嘘ついてしまったけど

どうしよう…

…そういえば学校に行く途中

電柱に張り紙が張ってあったなあ…

「何でも屋」

だっけ？

ウソ彼女とか紹介とかしてくれないかなあ…

試しに電話してみるか…

「この人が僕の彼女」

「あなたが噂の先輩達ね
あたしが恋人の天羽雅音よ
よろしく♡」

よろしく♡

この女性が一人で何でも屋をしている雅音さん
ちなみに子供もいる
一日だけウソ彼女になるどうでもいい依頼でも
格安で引き受けてくれた



「ほ・ほんとにいたのかよ…

しかも年上で巨乳って…

なあこんなやつのごとくがらんだよ？お姉さん
それより俺達と遊ばない？」

「えっいやよ♥

彼のほうがいいわ

優しいし 結構甘えん坊なの

それに彼って夜はすごいよ

昨日も 激しすぎてなかなか寝かせてくれなくて…♥

はあ〜♥」

でけー乳！
揉みてー！！

「ちょ…

ストップ！ストップ！」

雅音さんは勝手にないことを喋りだしたので
僕は慌てて止めた

「えっ…マッ…」

「お前童貞じゃないのか…？
仲間だと思ってたのに…」

「えっ…」

「じゃ…なんでもなら…」

「彼女紹介したから
もういいよね？」

「じゃあそういうことだから…
雅音さん行こう！」

「じゃあね♡」

「もうさっさと…」

「まだ色々話せるわよ♡」

「さっさと…」

「僕は雅音さんの手を引いて人が少ない場所に向かった」

「ここなら人もいないし大丈夫
とりあえず 先輩に会わず目的が終わったから
仕事終わっていいよ 雅音さん」

「海に来て水着に着替えたのに
なにもしないでこれで終わり？
せっかくだし 遊んでいかない？」

「う・うん」

「それともさっき言ったこと本当にしてみる？」
そう言ううと雅音さんは僕にキスしてきた

「あゝあゝ」
キスされて僕はびっくりしてしまった

軽いキスから
しだいに舌も入れてきて
抱き合い濃厚なキスをした

密着していてパンパンに膨らんだ僕の股間が気になったのか
雅音さんは水着の中に手を入れ僕の分身を軽く擦ってきた

すっ

すっ

すっ

はあ

はあ

はあ

はあ

ん

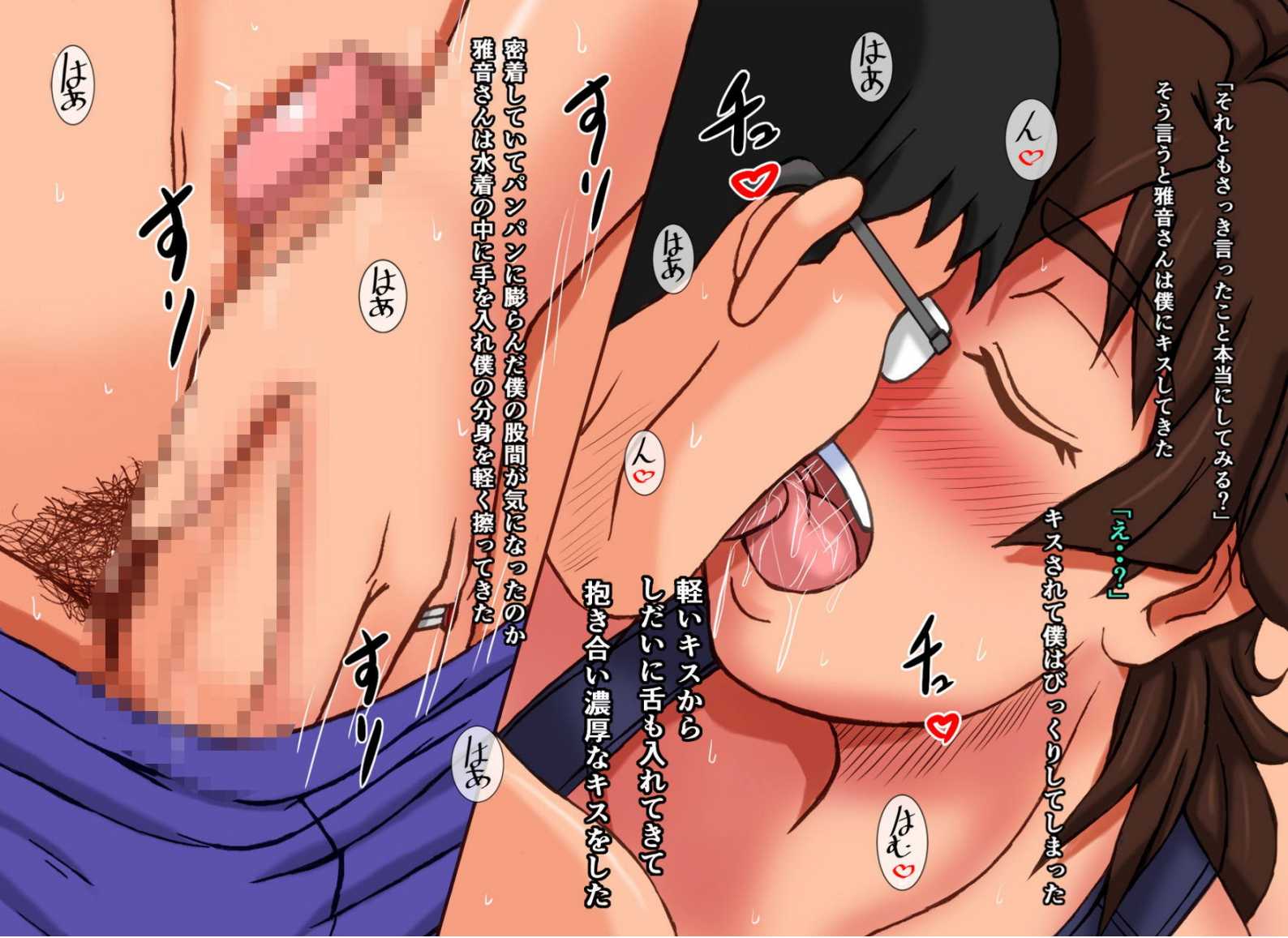
はあ

ん

ん

はあ

ん



「それともさっき言ったこと本当にしてみる？」

そう言ううと雅音さんは僕にキスしてきた

「あゝゝゝ」

キスされて僕はびっくりしてしまった

ん♡

はあ

あ♡

はあ

ん♡

あ♡

あ♡

すっ

軽いキスから
しだいに舌も入れてきて
抱き合い濃厚なキスをした

密着していてパンパンに膨らんだ僕の股間が気になったのか
雅音さんは水着の中に手を入れ僕の分身を軽く擦ってきた

はあ

びり

すっ

はあ

すっ

はあ

初めてのことに興奮しすぎて 手コキでイってしまっ
たおかげで水着の中は精液でびしょびしょになった

僕は持ってきていたビニールシートを敷き

しばらくの間 雅音さんとキスしながら抱き合っていた

抱き合っている間 このままS〇Xしたくて

雅音さんの股間あたりにイチモツをこすりつけていた

これだけでイってしまいそうだった

「そういえば まだ日焼けオイル塗ってなかったわね

ちゃんと対策しなきゃ塗ってあげる♥」

そういうとバックの中から〇〇ローションを取り出した

「それ日焼けオイルじゃないよね？」

「あら？持ってくるの間違えちゃった♥

まあ塗っちゃえば同じよ♥

水着脱いで横になって♥」

「え？裸？」

「ロムがあればやらせてあげるんだけど
これで我慢してね」

そう言うとな雅音さんは僕の上の跨った

はあ

フル



どお?
気持ちさらさ?

フル



はあ

は：はら！

はあ

もっとよくしてあげる



そう言うとな

ねっとりした腰つきが激しくグラインドしてきて
僕は数秒もしないうちにイってしまった

抱き合って腰を動かされると
SOXしているようだった

フル



フル



フル



フル



イって股間が精液まみれになってしまったも興奮している僕は無我夢中に腰を振った

はあ

グニャ

グニャ

グニャ

50555555

フイ

はあ

はあ

だーめ



もう イっちゃったの？
ふふ
好きに出してらいのよ

フイ

フイ

雅音さんの体は柔らかく
ローションのおかげでヌルヌルしてとても気持ちよかった
童貞の僕には股間を擦り合わせるだけで十分すぎるほどで
何回も射精してしまった

日が暮れ 海も満喫し 雅音さんの仕事も終わったことだし
後は帰る予定だったんだけど
あんな体験をしたら ますますやりたくなつて
僕は土下座して頼みこんだ

「しょうがないわね 一晩だけよ♥」

と言ってくれたので

泊まれる宿を探し 途中コンビニで コンドームを買っていった

宿に着き、早めに食事と風呂を済ませた後、
雅音さんを抱いた

はぁ♡

飲み込み早いわ♡
上手♡

ズン♡

佳んち♡

はぁ♡

ゆっ♡

はぁ♡

手ほどきされ、とうとう童貞を捨てることができた
最初はリードされていたけど、何度も抱くうちに
僕のペースになり、彼女をイカせることができた
僕達は二晩中愛し合った

ズン♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡

やだ♡
イカされちゃう♡



僕は休憩もはさまず
色々な体位にチャレンジして
サルのようにやりまくった

もうダメ。。。♡

はぁ♡

はぁ♡

何度目ようもう♡
好きね♡

いじめていた先輩達が海に誘ってくれなければ
僕は雅音さんに会うこともなく学校卒業するまで
童貞のままだったかもしれない
きっかけを作ってくれて
ありがとう 童貞先輩

終

ワキッ♡

はぁはぁ
もう一回..
もう一回したら
休憩しよう
雅音さん

名!

会社ノ取引先トノ 立食パーティー
仕事モ大事ダガ 女漁リモ大事ダ

ん

私ハ バストノ大キイ女性ガ 好キダ
今夜ハ ドノ女性ヲ オ持ち帰リシヨウ

ム?
アノ会長婦人
バスト大キイシ スタイルモイイ タイプダ
オ酒モ弱イト...
チャンスダ
ターゲットニ決メタ

私ハ親切ニ 解放スルフリヲシテ
私ノ部屋ニ連レ込シダ

婦人ハ大分酔ッテイルヨウダ
酔ッテ私ニ キスヲシテキタ
私ハキスシナガラ 服ヲ脱ギ
キス魔ナンダロウカ?
ベッドニナダレヨシダ



奥サンハ 私ノ大キスギルペ○スヲ見テ
驚イテイタ
ソシテ 興味アルノカ 玩具デ遊ブヨウニ
ペ○スヲ弄ツテイタ

「先ツポダケデモイインデスヨ
奥サン」

んっ♡

カリ首ヲ舌デ攻メ
次第二亀○ヲ啞エダシタ
流石ニ大キスギテ
根元マデ啞エル事ハ出来ナカッタ様ダ

♡
♡
♡

んん♡

んん♡

「ほんと作り物じゃないのね
こんな大きなモノ啞えられないわ♡」

♡
♡
♡

私が軽く
奥サンハ
アドバースルト
亀○ヲ中心ニ舐メ始メタ

奥サンノ 頭ニ軽く手ヲ置キ
私ハ サレルママニシャブラレタ

♡
♡
♡

奥サンノ、オシャブリハレナカナカ上手クテ
イクノニ、時間ガカカラナカッタ：

イッタ後ノ、大量ノザ○メンモ、綺麗ニ舐メ取り
玉ノ裏マデ、舐メラレテシマッタ

私ハ、オ返シニ奥サンノオマ○コヲ
マンダリ返シニシテ、ペロペロ舐メマクッタ

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

らめえー♡♡

ソウコウシテイイルウチニ
私ハ、限界ニ近ツイテキタノデ

「奥サン！ 出スヨ！
イイネ！」

ト逃ゲラレナイヨウ
奥サンノ足ヲガッチリト掴ミ
中出シヲ宣言シタ

「えー！
中は駄目よ！
赤ちゃん出来ちゃーう！」

奥サンハ 懇願シタガ
私ハ 奥サンヲ モノニンタクテ
中出シ以外ノ 選択ハナカッタ

ビュルルルル

ラストスパートニハイリ 腰ヲ激シク叩キツケタ
ソシテ アリッタケノ精ヲ
奥サンノマ○コニ 流シ込ンダ

事が終り

奥サンハ身支度ヲシ
ベッドノ横デ 後ロヲ向イテ 電話ヲシテイタ

奥サンノ尻ヲ見テイルト ムラムラシテキテ
私ノ イチモツガ スツカリ元気ニナッテシマッタ

後ロカラ抱キシメ 首筋 背中ニキスノ嵐ヲシ
押し倒シマシタ

「はあはあ

ん

もう行かなきゃ」

ソウ言ウガ 奥サンハ アマリ嫌ガッテイナカッタ
下着ヲ剥ギ取り バックデ挿入シタ

私ト奥サントノ 体ノ相性ハ イイヨウダ
アソコノ締めモ イイ

『あん♡』

「奥サン 今夜ハ帰サナイヨ」

「でも・・・」

「ああ・・・」

煮エ切ラナイ態度ニ 私ハ腰ヲ動かスノヲ止メ
焦ラス事ニシタ

「ね・ねえ お願い♡
何でやめるの？
はあはあ」

はあ

はあ

はあ

『もうだめ♡
我慢できない♡
泊まるから早くチ○ポで突いて♡
メチャクチャにしてよ♡』

ト懇願シ 墮チタ

奥サンハ自分カラ 腰ヲ動かソウニモ
体ヲロックサレテイルノデ
動かスコトガ出来ナイ
焦ラシニ耐エラレナクナツタノカ

♡
♡

♡
♡

♡
♡

OKヲ貰ッタ 私ハ
獸ノヨウニ 腰ヲ振り始メタ

「奥サン イインダネ?」

「あん♥
ええ...
もつと抱ク...」

喘ギ声ガ ハジメニ抱イタ時ヨリモ
声ガ大キクナツテイタ

奥サンハ スツカリ私ノペ〇スニ
ハマッテシマッタヨウダ
ソシテ 激シク乱レタ
私達ハ熱イ夜ヲ過ゴシタ

終

第四話

私は鷹山

某会社の会長をしている

ここ最近忙しく 妻や娘に構ってやれていない：

「ふう・・・」

「一旦休憩するか：」

コーヒーブレイク中

スマホでお気に入りエロ画像掲示板を見ている

私の中では最近 素人物がブームだ

リアルタイムでハメ撮り写真を貼っていく人もいてオカズには困らない

「この写真は3時間前のか：」

ある素人の人妻写真が気になった

人妻Mさんのハメ撮り中

と書かれている

私はティッシュを用意しじっくり見ることにした

気のせいだろうか
目線で隠しているが
ウチの妻によく似ているな。
「なになに…」

チ○コも
喰えちがろ
奥さんw

そんな奥さんの欲求不満を僕達が解消してあげることになりました
指定された部屋に入るなり 奥さんは我慢できないのか
僕達のズボンを脱がしチ○ポをしゃぶり始めました

「なかなか淫乱な女だな」

三本同時攻め

人妻のMさん
最近結婚したのに
共働きで忙しくもうSOXレス

「この夫婦もそんなものか…」

ト妻のおしゃぶり
上手すぎるぞ!!

Mさんはラ○ラチオが上手くて
参加している外人のおじさんも喜んでいました

「私もそれなりのモノは持っているが
それでも大きいな…
世界は広い…」

Mさんの性欲が爆発したのか
チ○ポ汁が飲みたくて 僕達はフ○ラチオだけで
何度もイカされてしまいました

「相当好き物だな この女
一度手合わせして欲しいもんだ」

チ○コを
喰えちがろ
果さんw

三本同時攻め

ト妻の
おしゃぶり
上手なぞん!

私はフ○ラ顔の写真だけで抜いてしまったので
次のティッシュを用意した

ちなみに奥さんのコスはこの感じですよ
ノリノリで着てくれた
ホント ビッチな奥さんw

発情してる
メスの顔



「全身網タイツに股間の部分が空いてるの
かなかないではないか
ウチの妻なんか
「コスプレなんて恥ずかしい…」
って着てくれないのに
こんな嫁羨ましい…
着てくれたら毎晩抱いてやるのに…」

中子ちゃん
これ見とくれたらいいね
これから
奥さん
いただきますw



奥さん早くやりたくて 発情しまくってます
今からみんなでハメまくり
色々写真撮って張っていきます

発情してる
メスの顔



中子ちゃん
これ見てください
いいね

これから

奥さん

いただきますW



「私もこういうのに参加したいood」
コスプレに興味がある
制服やパニーもいい
もう一度雅音に頼んでみるか...

「次は事後の写真か」

奥さんのマ○コ
一番にいただきました
意外にキツキツで思わず何度も出しちゃったw
旦那さんゴチッスw

ガ○ン
出しちゃったw

使用済マ○コ♡

次の千糸
メリマ〜す！

写っているのは小さめなチ○コだが
そんなにイカせるテクを持っているのか気持ちよすぎて
人妻は仰け反っている。。

「こは画像ではなく動画で配信してほしかったな」
私は新しいティッシュを抜き取った

「それにしても 妻によく似ている…」

夫以外の男に跨って腰を振る人妻
結合部がよく見えてとてもオカズになる…

40歳大好き
スケベ妻

男にまたかかって
いやらしい腰つき

「ずいぶん若いものもいるんだな…
若いっぱめに弄ばれる人妻か…
悪くない…」

男の匂いが染み付いた下着を
喜んで啜えているスケベな奥さんw

夫以外のオニオニで
見せるオニオニの顔w



チ○ポ汁飲まされて喜んでるMさん
跨りながらおしゃぶりをしたのだろうか
人妻の口にはたっぷりとザーメンが注がれていた

奥さんの腰の動きがいやらしいから見てもらいたい
今度どこかで動画上げる予定

「ぜひ見せて欲しい」

40ポ大好
スレバ妻

男にまわって
いやらしい腰つき

夫以外のち○こで
見せるオニオンの顔w

私は騎乗位が好きだ
揺れる巨乳を下から眺めるのがいい
私の妻も巨乳だ
今すぐ帰って騎乗位で妻を抱きたくなった...

場面は変わって廊下でやっちゃいました
ほかの客が見てるw

人妻はアイマスクをさせられ気づいていないようだ
腰を乱暴に突かれかなり乱れているのがわかる

奥さん巨乳で
廊下でSOX!

外人のチ○コがそんなにいいのだろうか…?
自分の妻が知らぬ男にこんなことされているのを見
てしまったら立ち直れないな…

お前がw

お前がw





「この外人体力あるな
私なんて2回が限界だ！
絶倫で羨ましい！」

奥さんのあえぎ声大きすぎてヤバイww
外人のおじさん抜かずに何発もやるから
奥さんイキすぎて失神しちゃうかもw

奥さん巨乳で
廊下でSOX!

ビッグサイズのチ○ポに野獣のようなSOX
ザ○メンも結構な量だ
あんな量 中に出されたら孕んでしまうな・
もう旦那とのSOXじゃ満足できんだろう

おっ
ドン
ソックスw

おっ
ソックスw

今回はここまで
この後もめちゃくちゃSOXする予定w
写真が溜まったらまた貼っていく予定です

指輪w

誰のセロソロが
当る介は？

人妻のマ○コには
大量のザ○メンが流し込まれていた

孕んた
ゴメンネ
旦那さんw

「の後も
めっちゃSOX」

旦那に隠れてこんなことしている奥さんなんて
私だったら離婚するね

「4...」

掲示板眺めていたら

あつというまに時間が過ぎてしまった...

そろそろ仕事に戻るか？

山積みになった使用済みのティッシュを片付けていると携帯が鳴った

妻からだ

「もしもし」

「んっ♡♡
あっ♡♡」

なんだか様子が変だが…?
なんか叩いている音が聞こえる…

指輪w

誰のセウナが
当る介は?

「はあはあ」

「なんだ? どうしたんだ?」
さっきから聞かしてらんので
なぜ答えないんだ

孕んたぞ
ゴメンネ
旦那さんw

「お前もソクモ
めアキチヲソクモ

「ひあっ♡♡」

あ…あなた…

あたし急に仕事が入っちゃって

今日は帰れなくなっちゃった…」

やっと用件を話してきた

ん? 今 男の声が聞こえた…?

「孕め!」

なんだ娘のことか
仕事なら仕方ない

「はあはあ
リコはいつも知り合いを預けてくれるから
帰りに迎えに行つて」

「大丈夫だ 問題ない
それよりさっきから 何かしているのか？
音も聞こえてるんだが 何だ？」

私は用件より音や雅音のことが気になった

孕んた
ゴメンネ
旦那さんw

「の後も
お預けか？」

「わかんないか...」

「な...な...な...
お預けか？」

結局わからないまま電話を切られてしまった。
今日はさっさと仕事終わらせて
家に帰り雅音を抱こうと思ったんだが
お預けか？
私はとりあえず手淫した